



学校だより

令和 8 年 9 月 吉日
上越市立有田小学校
校長 杉田 卓裕

「舵取り」

この言葉は、船やボートの「舵」を操作して船の行き先をコントロールするときに使われる言葉です。この言葉が、今、次期学習指導要領で使われようとしています。文部科学省（以降：文科省）は「舵取り」という言葉を使って子どもたちにどのような力を付けてほしいのでしょうか。

文科省が提示している文言は **「自らの人生を舵取りする力」** です。

みなさんはこの言葉を聞いてどのようなことを考えますか？私がまずイメージしたのは、この言葉の通り、船のハンドルを操作し、進む方向を決める子どもの姿です。自分で行き先を選び、決定して、前へと進んでいくのです。そこには、“**自己選択**” “**自己決定**”があります。この二つの言葉は前号でも記載し、当校で取り組もうとしている『**主体性**』に当たります。文科省の提示するこの言葉には、子どもたちに求める『**主体性**』を強く感じます。

また、文科省は、この力を育てるために「好き」（興味・関心）を育み、「得意」を伸ばすと伝え、さらに**当事者意識**をもって、自分の意見を形成し、対話と合意ができるということを伝えようとしています。やはりどこかで自分はどうなのかと自分を見る視点や自分のことを考えようとする思考が求められていると感じます。いろいろなことを自分に置きかえてみることや自分事として受け止めることの『**当事者意識**』は子どもに身に付けたい一つになっているようです。こうした『**主体性**』『**当事者意識**』は、学校だよりで伝えてきた当校で大切にしていることと一致します。学校では、さらにこの力（自らの人生を舵取りする力）が身に付くように具体的な場面をつくっていきます。それは授業です。子どもたちが自分に必要な位置（居場所）を認識し、自ら進む方向を自分で決めて他者との折り合いを付けながら歩んでいくことができる学びの実現です。そこで必要なのが、自分の位置と進むべき方向を知るための地図と羅針盤＝コンパスです。学校は、子どもたちが迷わないように、地図とコンパスの使い方を教えなければなりません。それを私は、『**学び方**』と言っています。少しずつですが学校のあるべき姿の一つに「**学び方を学ぶ**」学校づくりに取り組む学校が増えていると感じています。当校ではこの学び方を学ぶ学習を、「**有田コンパス学習**」と称して各学年学級で取り組んでいきます。左に示した絵図は子どもたちや職員で共有するために作成したものです。そして、子どもに手にしてほしいもの、それは「ARITA Compass」（＝学び方）であることを子どもにも伝えました。子どもに必要な力を身に付けさせるために学校では試行錯誤しながら授業改善に挑みます。うまくいかないところもありますが、社会の流れから必要とされることをとらえ、文科省で示す力を備えていくために職員の挑戦にご協力ください。社会に出たときの子どもたちの幸せづくりは、すでに始まっています。2学期もどうぞよろしくお願いいたします。

